木材加工機械等に関する実態調査の結果

令和８年１１月

林野庁　木材産業課　調整班

目次

１．アンケートの実施目的･方法･･･

1．アンケートの実施目的･方法

実施目的

木材加工機械業界の現状と課題を把握し、今後の政策的対応の検討の参考とするため、木材加工機械に関する事業者を対象として、木材加工機械分野における需給動向や価格上昇の実態、並びに業界が直面する課題や開発動向に関するアンケート調査を実施。

アンケート項目

① 直近3カ年の受注動向の傾向はどのようなものか。また、特に需要が増加している機械及び特に需要が減少している機械の特徴はどのようなものか。

② 木材加工機械の販売価格は、3年前に比べてどの程度の変化があるか。また、その要因は何か。

③ 1年以内に国内向けに販売等を行った事例はどのようなものか。

④ 現在取り組んでいる製品･技術開発等の方向性はどのようなものか。また、その課題は何か。

⑤ 販路拡大に向けてどのような取組を行っているか。また、その課題は何か。

⑥ 広葉樹の製材･加工の技術開発等で取り組んでいることや課題はあるか。

⑦ 行政に対する要望はあるか。

アンケート方法

実施方法：Webアンケート

実施時期：令和８年６月２日～24日

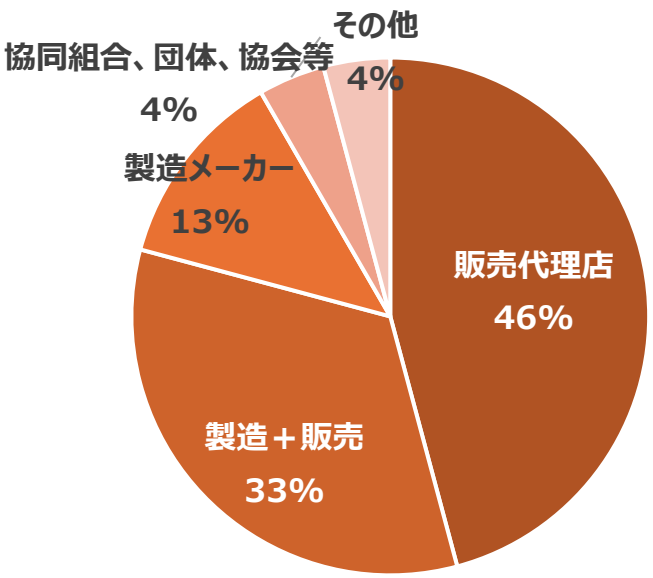
有効回答者数：24社
※業界団体を通じて、全国の事業者に回答を依頼

2．アンケート回答者の概要

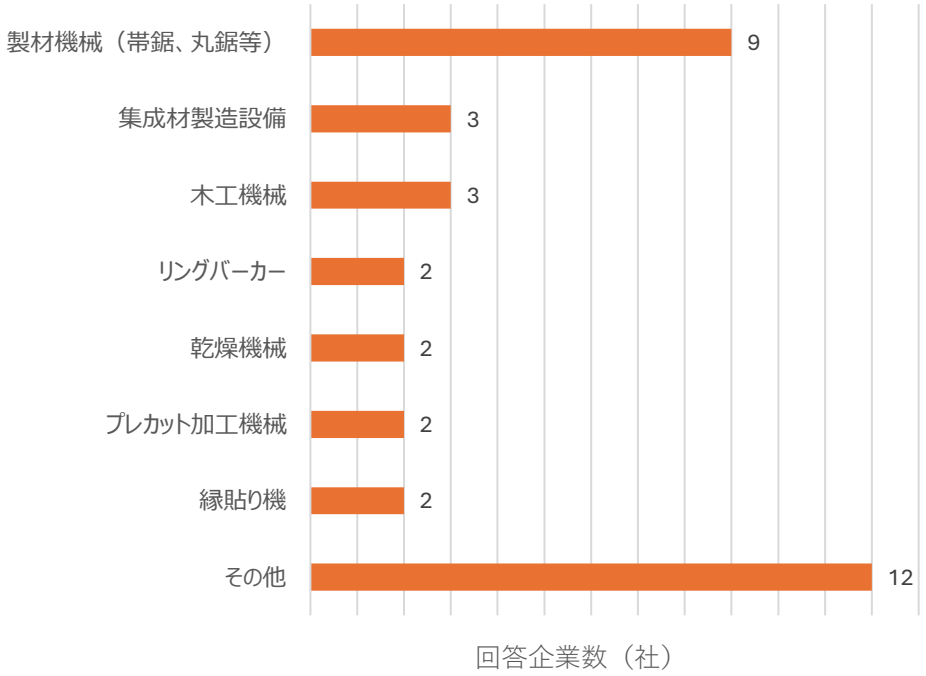
- ✓ アンケートに回答いただいた事業者のうち、最も多い事業形態は「販売代理店」（46%）、次いで「製造と販売」（33%）であった。また、その他製造メーカー、協同組合・団体・協会等からも回答を頂いた。
- ✓ 回答者のうち４割である9事業者が製材機械を主な取扱い機械として回答した。また、その他集成材製造設備、木工機械等、３～１事業者ずつ回答が分散した。

回答者の生産規模

✓ 業務形態



✓ 主な取扱い機械（複数回答）



※その他：パネル加工機、産業用ロボット、家具製造設備、CAD/CAMソフトウェア等各１社ずつ回答

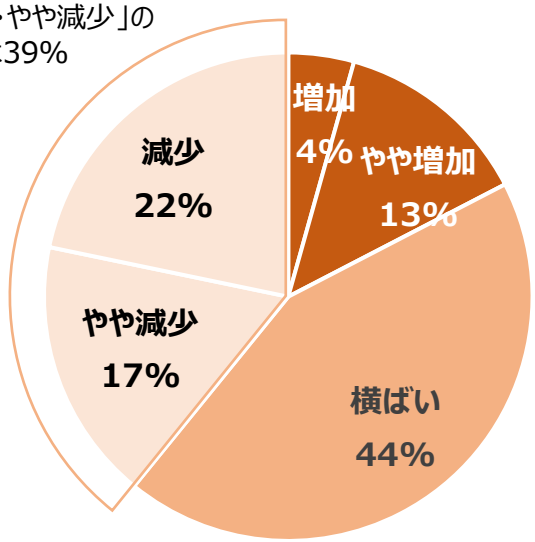
3．アンケート結果　①受注動向の傾向

- ✓ 直近3カ年の木材加工機械の受注動向の傾向を確認したところ、**木材加工機械の需要について、４割の事業者が「減少・やや減少」**傾向であると回答。特に需要が減少している機械として単体機（ラインでは無く独立した機械）や手動機械が挙げられた。また、全体的に需要が横ばい～減少傾向にあるなかで、**省人化・自動化設備については需要が増加傾向**。
- ✓ 近年受注した**木材加工機械整備の目的として最も多い回答は「古くなった機械の更新」**であり、回答者の半数以上であった。また、既存生産品目の生産拡大や生産性の向上といった回答も見られた。

直近3カ年の受注動向

✓ 木材加工機械の需要動向

「減少・やや減少」の
回答は39%



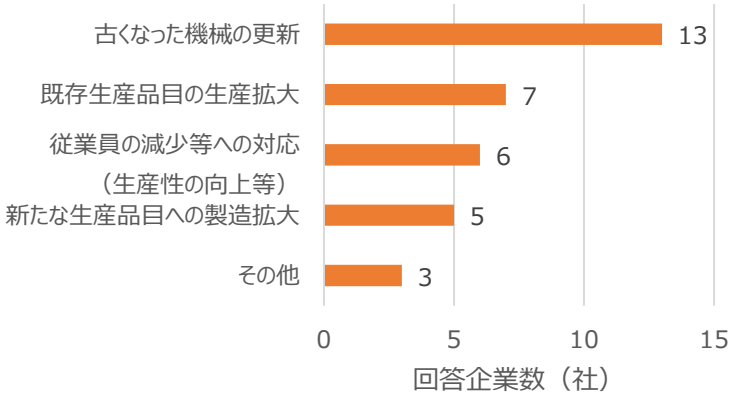
✓ 需要が減少している主な機械（自由記載）

単体機（ラインではなく独立した機械）や手動機（３社）のほか、鉋・プレーナー系、パネルソー・ランニングソー、２×４加工機等回答が分散した。

✓ 需要が増加している主な機械（自由記載）

省人化・自動化設備（８社）、特殊加工機（２社）のほか、縁貼り機械やパネル加工機等回答が分散した。

✓ 近年の機械整備の目的（複数回答）



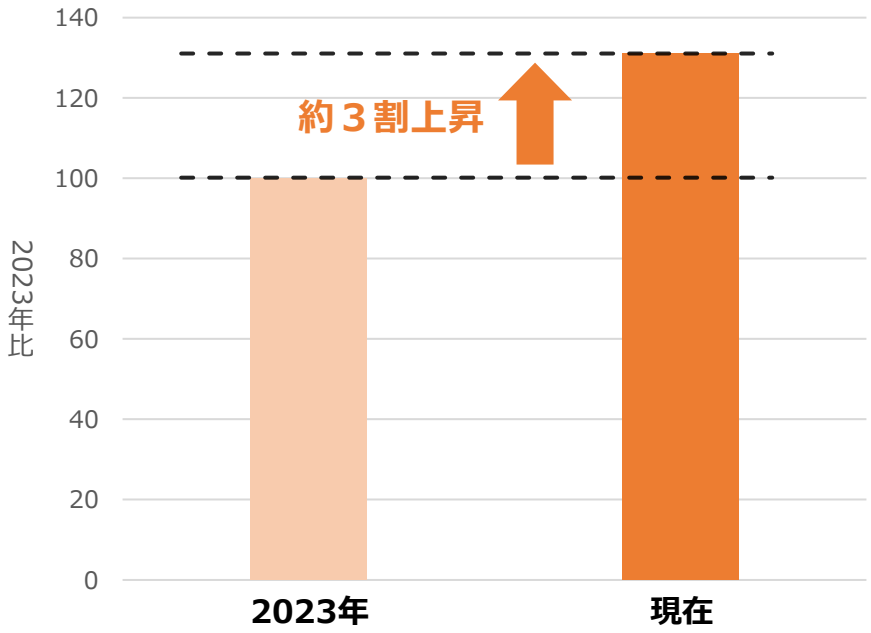
3．アンケート結果　②木材加工機械の価格

✓ **直近3カ年の木材加工機械の価格は2023年比で上昇傾向。その幅は事業者により幅があるものの、平均で３割程度上昇**。上昇の要因としては、製造を行っている者のうち半数以上が「原材料費・部品代」を挙げているほか、販売代理店では「為替」と回答する者が最も多く、回答者の属性により回答には差異が生じた。なお、「人件費」と回答したのは２社のみである。

木材加工機械の価格動向

✓ 加工施設の整備単価上昇率

（2023年時の価格を100とした場合の比率）



✓ 回答属性別の単価の主な上昇要因

（複数回答）

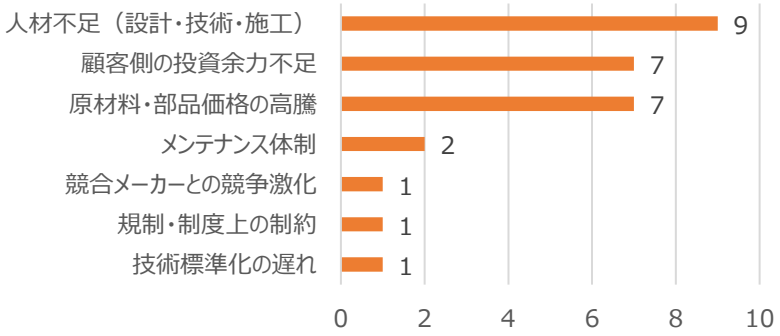
事業形態（回答社数）	原材料費・部品代	為替	人件費
総数（21社）	13社	6社	2社
内、販売代理店（11社）	4社	5社	2社
内、製造＋販売（7社）	7社	0社	0社
内、製造メーカー（3社）	2社	1社	0社

3．アンケート結果　③販路拡大、製品・技術開発に関する動向

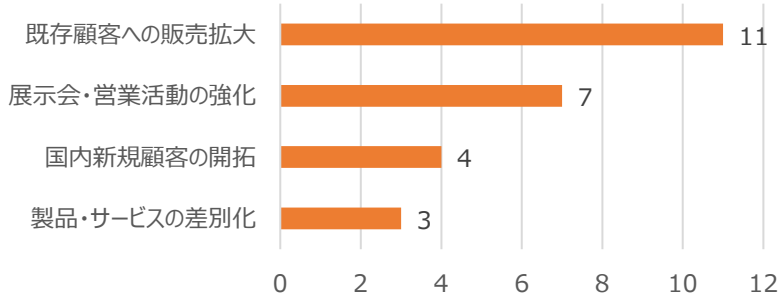
- ✓ **販路拡大、製品・技術開発への課題として、多くの事業者が『原材料・部品価格の高騰』や『人材不足（設計・技術・施工）』、『顧客側の投資余力不足』**と回答。
- ✓ 木材加工機械の**販路拡大に向けた取組として、既存顧客への販売拡大や展示会・営業活動の強化**と回答した事業者が多くある一方で、少数ながらも、新規顧客の開拓に取り組む事業者もあった。
- ✓ 現在取り組んでいる製品・技術開発の方向性について質問したところ、**省人化、自動化、高付加価値製品への対応に向けた製品・技術開発**をしていると回答した事業者が半数を占めた。また、その具体例としては、機械学習の導入などが挙げられた。

✓ 販路拡大、製品・技術開発への課題

（複数回答、有効回答者数：21）

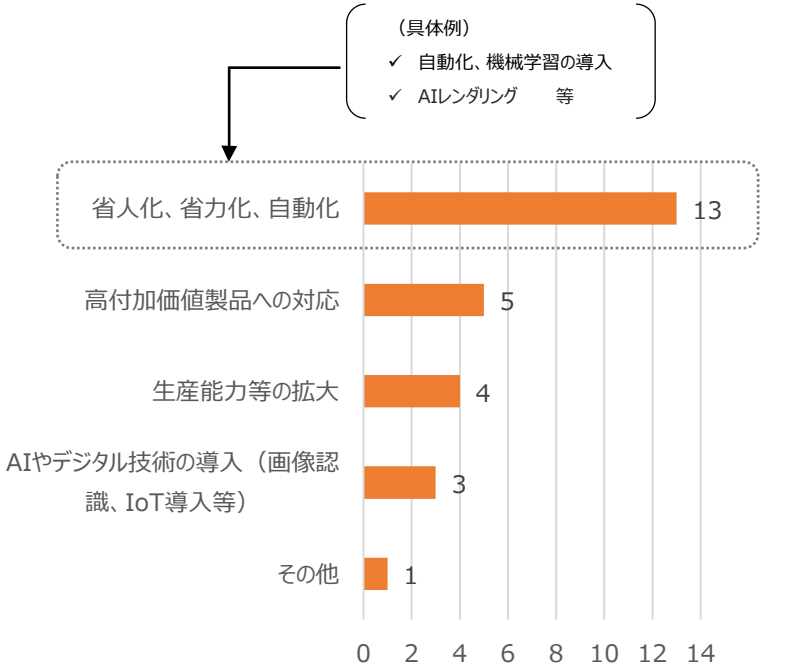


✓ 販路拡大に向けた取組（複数回答、有効回答者数：21）



✓ 製品・技術開発の方向性

（複数回答、有効回答者数：21）



3．アンケート結果　④行政等への要望

- ✓ 補助制度への要望が最も多く、**交付手続きの迅速化**が挙げられたほか、制度内容の周知不足により、既に支援対象となっている機械への支援拡大を求める声もあがった。
- ✓ そのほか、行政説明会開催などの人材育成、木材需要と価格の底上げ、為替対策、安全基準の更新も個別課題として挙げられた。

行政等への要望内容（※17社から回答、（）は回答者属性）

- **行政説明会など、人材確保の強力な施策、サポート**。機械や技術の進歩についていけない機械販売業者が多すぎる。知識不足にもかかわらず、流通の中間に存在することで、エンドユーザーへの最先端知識や、技技術の伝播の妨げになっている。**業界の教育レベルの底上げ**をお願いしたい。（販売代理店）
- 循環型社会を構築し、**木材価格の向上**を図ってほしい。（販売代理店）
- **木工機械の安全基準の見直し**。最新の技術に即していない、古い安全基準がある。（販売代理店）
- 補助金の採択がおりても、**事務局の交付手続きに三カ月近く**かかる事例があった。（協同組合、団体、協会等）
- **円安対策として、ドルだけでなくユーロにも力を入れて欲しい**。（製造メーカー）

等

４．まとめ

✓　木材加工機械業界の現状と課題を把握し、今後の政策的対応の検討の参考とするため、木材加工機械に関する事業者を対象として、木材加工機械分野における需給動向や価格上昇の実態、並びに業界が直面する課題や開発動向に関するアンケート調査を実施した結果、以下の現状が明らかになった。

①木材加工機械の需要は横ばい～減少傾向

✓ 業界全体の**需要は縮小傾向**にあり、約8割の事業者が「横ばい～減少」と回答。特に汎用機械や手動機械で需要の減少がみられる。
✓木材加工機械の需要は縮小傾向にあるなか、**省人化、自動化、AI・IoT関連機械については需要が増加傾向**。

②機械価格は2023年比で平均3割上昇

✓ **2023年比で平均3割での価格上昇**がみられる。
✓ 価格上昇の主な理由は、製造を行う者の半数以上が「原材料費（資材費、部品代）」と回答したほか、販売を行う者からは「為替」という回答も目立った。

③省人化や自動化に向けた需要が増加

✓ 木材加工機械の需要は縮小傾向にあるなか、**省人化、自動化、AI・IoT関連機械については需要が増加傾向**。
✓ 木材加工機械業者においても、省人化・省力化・自動化や高付加価値製品への対応に資する製品・技術開発が半数を占めている。

④販路拡大、製品・技術開発への課題

✓ **既存顧客への販売拡大や展示会・営業活動の強化等の取組が進む**一方で、販路拡大、製品・技術開発を行うにあたり、「人材不足（設計・技術・施工）」、「顧客側の投資余力不足」、「原材料・部品価格の高騰」が多くの事業者の間で課題となっている。

⑤求められている今後の支援の方向性

✓ 補助制度への要望が最も多く、**交付手続きの迅速化**が挙げられたほか、制度内容の周知不足により、既に支援対象となっている機械への支援拡大を求める声もあがった。
✓その他、**人材育成、木材価格の底上げ、為替対策、安全基準の更新**も課題。